

# LEON- TODO

*N-roll*



1955

JANUARO

Antai

Ni B

S-ro J.

チ工の

Esper

国際児

川中学

「世界

Kiel V

Revuo

鶴集引

連盟の

北海道工

地方

Ni vo

あ

~ ĈIKARUKARUPE ~

La bildo sur kovrilo estas de  
 vorto de "Hidaka-Ainu" kiu  
 loĝas en Hokkaido. La vortoj  
 estas nomataj "Ĉikarukarupē"  
 estas tre belaj. Bedaŭrinke,  
 mi (presist) ne povis presian  
 koron du kolorojn sur la bil-  
 don pro la manko de koloroj kaj  
 energio. (4)

El "Kumāsi-no-Teĉoo"  
 (serĉeis la numeron)

## — ENHAVO —

Antaŭparolo de la Novjaro .....	P.	
H. AIZAWA .....	2	
Ni Bonvenigis S-ro J. Berry .....		
I. YAMAGA .....	3	
S-ro J. Berry を迎えて .....	江口 音吉 .....	4
チエコのリダ機から .....	早川 昇 .....	5
Esperanto 通信に教わる .....	アリマヨシハル .....	7
国際児童画展について .....	新田 爲男 .....	9
小中学校のエスペラント教材 .....	木内 一夫 .....	10
「世界の子ども」運動について .....	星田 淳 .....	11
Kiel Vosto de Simio estas Mallonga? .....		
N. Hayakawa .....	13	
Revuo Orienta による北海道エス界 .....		
坂下 清一 .....	14	
編集引継がせのことは .....	山本昭二郎 .....	21
連盟の機関誌と入会についてお願い .....		22
北海道 에스ペラント連盟会員名簿 (1955. 1. 31 現在) .....		23
地方会役員住所変更 .....		24
Ni volas Korespondi .....		25
あ と が き .....		26

## ANTAŬPAROLO DE LA NOVJARO

H. Aizaŭa

*Feliĉan Novjaron!*

*Tre Estimataj Gesamideanoj en la norda insulego.*

*Mi elkore salutas al ĉiuj gesamideanoj en Hokkaido, kaj mi estas ĉiam dankema pro riaj ĉiamaj klopodoj por Esperanto.*

*Je la komenco de la nova jaro ni komitatanoj de H.E.L. decidis, ke nia esperanto-movado en Hokkaido plivigliĝu kaj faru energian laboradon por nia sankta afero, laŭ la decido de lasta kongreso en Sapporo.*

*La unua grava afero estu la eldono de la "LEONTODO", kiu fariĝis la organa gazeto de H.E.L.*

*Ĉar la gazeto "LEONTODO" estis tre bele kaj tre bone eldonita ĝis nun per la manoj de la otarvanoj, kun iliaj grandaj klopodoj kaj sindonemaj laboradoj, kaj ĝi jam akiris sufiĉan aplaŭdon tra tuta Japanujo; la respondeco de ni komitatanoj estas tre granda kaj ni tre timas, ke la projekto iros bone aŭ ne.*

*Mi petas al vi samideanoj plian subtenadon kaj helpadon ĉiaman, kaj daŭrigu la floran de Leonto do ja eterne, kaj nian verdan movadon sukcesigu.*

Las  
unu n  
tiuntu  
reiros n  
po kaj  
Post  
idaano  
reni l  
ero. Saa  
Li k  
agite za  
riceni  
inda k  
Li n  
ejon. t  
stis l  
samide  
poste l  
"tatami  
kuseno  
kukon"  
donaco  
Sun  
"getao"  
n kun m  
Ni en  
granda  
kaj alio  
Cetere  
Jam

Ni Bonvenigis S-ron J. Berry.

la 10-an de Okt. 1954

Otaru J. Yamaga

Lastan dimanĉon respere ni ricevis telefonon de unu nekonata fremdlandano tute neatendite. Li venis tiuntagon posttagmeze en nian havenon por ŝipo kaj kaldari reiros morgaŭ matene. Li volis vidi min en tiu mallonga tempo kaj atendis ĉe Hokkai-hotelo.

Post ne longe mi vizitis lin kun akompano de nia suideano Eguti kaj tie unuan fojon povis saluti kaj kongreni lian nomon: s-ro J. Berry, 34-jaraĝa radio-inĝenero. Seattle U. S. A.

Li konis mian adreson en la Jarlibro de UEA kiel delgado kaj telefonis min, tamen por mi estis la unua fojo ricevi tian neatenditan anoncon. Cetere estis tute mirinda kaj ĝoja afero por ni esperantistoj.

Li volis vidi en la urbo bibliotekon, lernejon, banĉojn, trinkejon kaj japanan hejmon. Do kvankam jam estis la 8-a, ni iris unue al la urba biblioteko kun samideano Hayakawa, kaj ankaŭ el publika banjo, poste li vizitis mian domon, tie li povis vidi japanan "tatami" - ŝambron sidigante (kun kurba kururo) sur kuseno "zabuton". Li trinkis japanan teon kaj manĝis kukon "yokan" kaj ankaŭ "senbei" sur la tablo. Kiel donaco mi donis al unu rondan bonbonujon de lakaĵo.

Sur la strato li estis tirita al belaj japanaj ligĉuoj "getao", kaj mi aĉetis kaj donis al li tiun virinan "getao" kun ruga ŝnuro por lia edzino. Li ja estis patro de du filoj.

Ni eniris en japanan trinkejon, kie oni sidis en malgranda ŝambro kaj trinkis japanan alkoholaĵon "sake" kaj aliajn, kiuj plaĉis al li anĉe, mi ne povas diri. Cetere li dankis tute bongusta.

Jam venis la tempo reiri al la ŝipo, kaj oni returis

la havenon, kie kuŝas granda usona ŝarĝŝipo "Weigel".  
Li kondukis nin en la ŝipon kaj montris sian Embbron  
kaj aliajn.

Prenante la manojn unu la alian, ni adiaŭis kaj  
esperis venontan ŝancon revidi. S-ro Hayakawa bone  
deziris lian bonan ŝancon kaj bonan rozaĝon.

P. S. Tian malofte bonan ŝancon mi ne povis anonci al  
multaj gesamideanoj en nia urbo, kial la tago estis dim-  
anĉo kaj oficejo kaj lernejo fermitaj kaj lia anonco  
tute neatendita, kaj plie la tempo tro mallonga.

Mi deziris ke li bonevole antaŭskribu sian viziton.  
Tiam ni nepre pli multope lin bonvenigos kaj kontaktoŝ  
Fine ankoraŭfoje koran dankon por lia vizito.

La Adreso :

S-ro Jay Berry

3231 West 62<sup>nd</sup> st.

Seattle 7, Washington,

Usono

S-ro J. Berry を迎えて

小 橋 江 口 音 吉

10月10日の日暮れ時、D-ro山崎が  
由北港ホテルに外国人のエスペランティスト  
が来ているから会いに行こうと電話があつた。  
そしてその人は何処の国であるかまた  
名は何というのかもわからぬとのこと。  
自分としては外国の同志に会うのは全く久  
しかりである。戦前の空白があつたりした

中央でも無いこの工業にあつてはさういふ  
機会にめぐまれません。今日こそ好機と喜んだ  
のである。ところがその友グワから紙書講  
があり自分としては、どうしても出返けれ  
ばならぬ事情があつて、この同志に会いに  
ゆけぬ。誠に残念ながら一断したので  
ある。けれど時計をみると6時である。外

国の同志  
を prae  
たつてす  
でホテル  
上にコー  
合うこと  
の初対面  
cigarete  
とればい  
fumasと  
われたか  
みて Del  
わかつた  
いるメリ  
いる。社  
ingenie  
ない。辞書  
と彼氏は両  
か。話の  
死かと思  
前向きに  
そして相手  
がる。さす

り夕頃は  
に有る賢  
もろ。足  
城かの手  
番の昏  
「兵争は、  
自然業を

国の同志と会わねば話に花はぬ、*min lingvo* を *praktiki* する唯一の機会である。そう  
 だが話すまで若干話せると大急ぎで自転車  
 でホテルへゆく。そして D-ro 山賀と共に階上  
 にコーヒーをすゝりつゝ待つている同志と  
 会うことになつた。山賀氏についで聖通り  
 の初対面の挨拶をする。後は *Bonvole!* と  
*cigareto* を差し出した。 *Dankon!* と一本  
 とればいいのにタバコをすねぬ自分は *Mine*  
*fumas* と断つた。 *etikedo* を知らぬと思  
 われたかも知れない。聞けば UEA の耳巻を  
 みく *Delegito* である D-ro 山賀の住所が  
 わかつたのだという。小紙巻に筆を下ろして  
 いるアメリカの獨逸劇の *maristo* であるとい  
 う。相手は何ですと聞くと *Uradio* の  
*ingenero* という。 *Uradio* とはわか  
 らない。辞書をめくつてもみつからぬ。すると  
 彼氏は両手を耳にあてた。ハハハ *Radio*  
 が、話のわからぬ時の手裏似ざるまねとはこ  
 れかと驚とる。発音が向うのくせもあり一寸  
 聞きにくくと思つたが慣れるとよくわかる。  
 そして相手はこちらの云うことはすつかりわ  
 かる。さすが *Esperanto* である。

いくつかと聞えぬ *tri kaj kvar* という成  
 程 34 才か、自分なら *tridek kvar* と云  
 ってしまうのであろうが成程前の方が歳で  
 ある。自分は期間が少ぬい、D-ro 山賀を  
 送おいて暖をとばして *Babili* したわけ  
 である。さてく時にもなつたので自分は  
*Bonan vojagon, ĝis la revido!*  
 とホテルを去ることにした。恰度入道に  
 s-ro 平川はくる。助け舟である。話も  
 新たにになり、アメリカの同志も運送せぬで  
 ころう。その夜は三人で街を *promenadi*  
 して先出の家の情緒を満喫したことであ  
 る。自分は昭和 8 年小樽を訪ねたヨセフ・  
 マヨール氏、夕丘に乗たハンカリヤのフレ  
 ドリックヤツク氏、それから昭和 17 年 8 月  
 24 回日本大会が札幌で開かれた時に会つ  
 た中国の同志葉利斯氏以来これで四人目の  
 外国の *Esperantisto* であつた。文通  
 や交換もいゝが、同志の訪問することは最  
 上の刺戟である。もしこのことが一日早く  
 わかつて来て小樽の同志皆集つて来て *in-*  
*terparolado* をしたなら、どんなに愉快  
 であつたらうと思う。

## チエコのリダ嬢から

早川昇

リダ嬢は、チエコスロバキアのタボール市  
 に有る農業研究所にお勤めのお方で、私とは  
 もろ、足かけ四丘の手紙交換である。こゝに  
 城からの手紙の一本を取り掲げて訳出し、読  
 者の皆様に微笑んで頂くことにする。  
 「今頃は、お手紙と、それから書くほど綺麗  
 な絵葉書も可成り、有かとう存じます。

今日の時候で私のお願せしよと申します  
 のは、貴方の御希望に従つて、チエコの私  
 達の贈りものの贈渡です。考えで見ますと、  
 人様に品物を差し上げるということには、  
 主に京教約だと思われる保証が有るよう  
 で御座いますね。クリスマスに、砂糖菓子や  
 林檎や胡桃(クルミ)や小籠焼を飾り立て

たクリスマス、ツリーの準備を立てまして、其の下に、家族同五や叔達同五で乗り交わした乗り脚を置きます習慣は、もう半分、木の木のお国一日でも行われて居る事でしょう。小さい女子供さん達にとつては、こんな楽しい時は、外にないで御座いますよ。

クリスマス前にも私達は、12月の6日に、ニコラス司教様のお名前を祝福する行事を致します。其の時、ニコラス司教様は、天使巫や悪魔奴と一緒においで遊ばしめて、御自身、勇気のある小さな子供達には、荷つて来られた贈り物——其れは主に、砂糖菓子と胡椒ですが——其れを下さるのです。と云ふは、糖病の子が虫口と申しますと、誤れです。此の人達は悪魔から悪魔に對する罰として叩かれねばならないからです。さて、夕方になりますと、聖ニコラス様は、大衆の「踊りの夕べ」へ、出かけて行かれます。そして、其處に集つて居る皆へ、ユーモアたっぷりの贈り物を下さるのです。

次に、お話は、復活祭へ参ります。私の此の手紙には、三枚の写真を同封致しましたが、先づ其の一枚(A)を御覧下さいと思います。此の写真には、7ク、8オのトナモ特麗な衣装をしたお嬢さんが、是れお礼装で笑臉をほしている二人の青年に抱つかまつて、喜ばらぬがら船籠で打たれて居る猿子が写つて居ましよう。復活祭の月曜日には、青年達は朝の内に、娘さんの居る家へ出かけて行くのです。そして娘さんを探さると、此のお祭り用に作られた家で、崖山麓たひきようを、其の上で娘さんに、船命運の荷つて来た色紙付の卵を買わせるのです。此の場合、娘さんが若

し其の中の誰かに思われてでも居ますと、其の青年から、罰金に美しい卵が贈られるという事に成ります。此の日には、小さな女子達も伯母さん達の所へ出かけますと、やはり此の絵卵を買うのです。此の絵卵には、新しい流行女現れて来て居まして、チョコレートのお友んかを、兎が持つて来て呉れた物だと云つて子供達に与える風が行われて居ます。此の兎と云ふのは、<sup>おとこ</sup>、山羊の子、鶯鳥の子、歌鳥の子などと同義、復活祭の季のシンボルなんです。

...之、お目的の写真(B)では、貴方は何を御覧に成るでしょう。こゝには一人のお嬢さんが、紙和の紙細切の舞つて居る歌の上に、十もの絵卵を敷かして、微笑んで居ましよう。其の絵卵の数は、御注意なさいましたか。単花の絵があるかと恐うと、是れははしたり、タキシードを着たワンワンの彼も御覧居ましたね。

お目的の写真(C)は、如何にロマンチックなお嬢さんが二人、抱き合うように坐つて、お互いに買つたり賣つたりした絵卵の見せつくらをして居るところなんです。復活祭での贈りものにしては、先づ此の位にして置きましょう。

私達は、此の外に、誕生日とか名付け祝の時どとかに、友人や家族の人に贈り物をしますし、病人の誕生日には初輪の爭取します。

五月には、其のオニオカオニの日曜日に「母の日」というのが有りまして、其の日にはお母様へ、チョツとしたものを贈ります。

是れは、郡会でも、田舎でも、行きわたつて行われて居る習慣です。その場合、何を差し上げるかは、勿論子供達の「俄其合」

が決めるこ  
以上で、  
西での贈り  
私は今、  
つた「日本

いままは  
と文通して  
かingeni  
いての時尚  
通信をはじ  
と、教えられ  
りありません  
トバを一面  
せて世界各  
と餘八かキヤ  
国の人の未知  
ができるE  
でした。楽し  
する。文通を  
ばならない。  
通するといつ  
antoの習  
くれました。  
anojと文通  
とは見持の  
ることかわか  
ずに文通し  
も知れませ



が決めることなんです。

以上で、大略では有りましたが、私共の  
国での購りのものゝお話を轉らせて置きます。

私は今、貴方が何時そや私にお書き下さ  
った『日本人の書くことの本質』(書体の

説明)を思い浮べて居ます。とても其れは、  
私には判りにくいものでしたけれども、そ  
っくり覽えさせて頂きました。厚く厚く御  
礼を申し上げます。

(克)

## Esperanto 通信に教わる

サンボロ

アリマ・ヨシハル

いま私はノースカロの *gesamidoanej*  
と文通していますが、その大部分は建築家  
が *ingenieroj* で文通の内者も建築につ  
いての専門的なものも多くて、*Esperanto*  
通信をはじめたころのようなおもしろいこ  
と、教えられるような興味ある話題はあま  
りありませんが、*Esperanto* というコ  
トを一定面白い論文、その実情を發揮さ  
せて世界各国 24ヶ国の *gesamidoanej*  
と彼ハガキや短文の手紙で文通を始め、外  
国の人の未知の習慣や風刺などを知らな  
ことのできる *Esperanto* 通信は楽しいもの  
でした。楽しいためにだんだん広く文通を  
する。文通するには誰でも勉強しなけれ  
ばならない。勉強すれば *Esperanto* が上  
達するといった果合で文通は私の *Esperanto*  
の習得に非常に大きな力を与えて  
くれました。こうして外国の *gesamidoanej*  
と文通していること、私どもニッポン  
人とは発音の表現法や習慣などがちがって  
ることやわかつて色々教えられました。  
すでに文通している人々には興味がないか  
も知れませんが、初めの人にはおもしろ

いものもあるかと感心して、*Esperanto*  
通信が教えてくれたことを拾いあげて書い  
てみましょう。

昭和6~7年、滿州學堂のころラトビヤ  
のある夫人から採た *Letero* には「アジア  
については殆んど知識がありません。何  
か面白いおもしろい所のような気がしま  
すワ」と書き出して、ニッポンについて詳  
しく知りたいと書いてありました。リト  
ニヤからの彼ハガキには煙突の長い小型の、  
ちやうど明治時代のわが国の機関車のような  
のが描かれてあつて、その裏面に「……  
滿州には汽車や電車がありますか」と書い  
てありました。そこで、さつそく超特急ア  
ジダ等のプロマイドに「この汽車は満鉄で  
つくられ、大連からハルビンまで一 筆者  
註・やや東京サンボロ間の距離——を12  
時間余りで走っている電行列車です。また  
大連にはトビラと上り段が自動的に開閉す  
る近代的な電車も走っています」と添書し  
てやったことがあります。

ドイツの *Simjoro* から「滿州はニッポ  
ンのものではないか、それなのになぜ戦う

のか<sup>1</sup> という手紙が来た、イギリスの *junulo* からは「私たちはなせ強いのをいじめるのだ。即刻に戦いをやめよ<sup>1</sup>」と叱られ、長々と書きなぐったキリスト教の牧師教を語ってきたことなどもあります。そのころの *Eŭropanoj* は *Azio* や *ニッポン* を知らない人が多かったようです。

外国人と文通して困るのは、これらの *adreso* の読み方が判らないこと、*nomo* を見ただけでは *viro* だが *virino* だが区別がつかないことです。もつとも *nomo* の男女別は敬称の *s-ro*, *s-ino*, *f-ino* を見れば区別がつかますが、その発音と *adreso* の読み方が判らないのは未知の発音の発音かわからないのと同じで不便なものです。スイスの *frat'elino* と文通しているときでしたが、どう間違つたのか *s-ro* として通信していたのです。ところから度目かの返事で「あなたは私が少女だということを知らねいのですか。女性に *s-ro* なんて失礼です<sup>1</sup>」とおごごを食つたことがあります。ニッポン語の *Letero* なら「……ですの<sup>1</sup>」とか「……ですわ<sup>1</sup>」と女用コトバで書いて名前が読めなくなつたって女の人の *Letero* だつてことはハッキリするのですが、*Esperanto* 文は女用男用のコトバに区別されてないので手紙文を見ただけでは男女別がハッキリしないため *sami-deamino* だとは異村かずに文通していたのでしよう。自分の名刺や通信のときの名前に敬称をつけるのは初めは何だか変でしたが、慣れれば便利だと思ひます。

欧米人の手紙でまごつたのは文字に横書き形があつて読みにくいことでした。ドイツ系といいますがむかしドイツに属し

ていた土地の人からの文字にはドイツ文字式の形で *da*<sup>1</sup> を *lolol*<sup>1</sup> と書いてあつて、これを初めて見たときは *lolol*<sup>1</sup> と読み、こんどコトバがあつたところから訳書を探して取せものでした。『*Estas*<sup>1</sup> の *f* をはじめ *A* と誤りました。』*porto* の中間に大文字が入るのはおかしいと考へ、*Leestas*<sup>1</sup> 或 *Lestas*<sup>1</sup> であることに気付いたこともあります。『*d, f, k, p, r, z*<sup>1</sup> は *d, f, k, p, r, z*<sup>1</sup>』と書つた私どもには *d, f, k, p, r, z*<sup>1</sup> のように書いて来る手紙の文字がめずらしいものでした。ロシア人口数等の *4* を *4*<sup>1</sup> のように書いて横線は絶対に横線より右へは出しませんが *Esperantistoj* の中にも *4*<sup>1</sup> とか *H*<sup>1</sup> のように書く者が多く、*L*<sup>1</sup> を *L*<sup>1</sup> と書いた手紙をうけたことはよくあります。

欧米人には、心に余裕がなく、尋常義に返答すといつた風の方が少く存じようです。文通をはじめて2度ほど *Letero* を往復すると、*L* ははいよ一人の友人をたいてい *letero* だつて誤つて居つて居る。もしさう思ひしければおはなさいといふ返答のこの字をさからさまにあつてよこしたり、手紙の結びのコトバに *L* ナタの *fratino* によるしく<sup>1</sup> とか *L* から *via amikino* によるしく<sup>1</sup> と書いて来ることは必ずしもありません。そしてこれが外国人からの *Leteroj* だからそれ程ど変には感じないのですが、ニッポン人からのであつたら、何んか直裁両派も無いおれの妹やブミーによるしくなんて嫌らしいおせじを響きやがつてその感じを抱きたくなるかも知れません。外人と文通してほのほとした陽かみを感ずるのは *Letero* の最後のコトバです。結びの

コトバに  
が読われ  
しある  
誰かより  
？ 敬目  
を括んだ  
ッポン台  
のニッポ  
いるよう  
和95の  
から *L*<sup>1</sup>  
れた *Let*  
のでした  
たから本  
く自分本  
してひと  
さきの敬  
以上つし  
は *L* だき

由に工  
主権の由  
愛國、故  
高橋名氏  
前田所有  
その絶對  
小學生  
高橋庄や  
てみる者  
て改めて

コトバには普通、Via……Tute via…  
が使われますが、もしニッポン語の手紙に  
「あなたの誰様より」とか「全くフナダの  
様方より」と書いたとしたらどうでしょう  
？ 敬白、敬具、不一というシナ語で手紙  
を結んだり、さようなら、かじこというニ  
ッポン古語で終らせる習慣になつてゐる多  
くのニッポン人には、遊人からの手紙を見て  
いるような感じがするかも知れません。野  
和9狂の祭・フルセンチンの fraillino  
から「Tute sindone via」と語ら  
れた Letero をもらったときはほつれしいも  
のでした。何しろそのころはまだ親身でし  
たからネ。初心者の私はそのコトバを「全  
く自分を捧げたあなたの方……より」と直訳  
してひとりであれしがつていたので、  
さきの敬白、敬具はニッポン語に直すとし  
て上つつしんで申し上げます」となり、不  
一は「まだ言いつくされていませんね」とい

う意味になつて親しみのあるていねいな結  
ひのコトバになるのですが、現代人の使う  
コトバとしてはもう古くさい感じ致します  
し、さようならば「さようならば、おいと  
まはる」という武士コトバの「それで」  
「して」の意味の「さようならば」の变化  
であり、しかしこれは「恐れながら申上げ  
ます」という意味の「敬し」というコトバ  
から変化したもので、よく使われる可成は  
当字でまちがひです。「さようなら」「か  
じこ」はニッポンの古語ですが、敬具、不  
一のシナ語よりはまたずっと親しみがありま  
す。たがもしも Espanto が使つて  
いるような怪なコトバをニッポン文でも使  
うようにしたらもうと親しみある Letero  
が出来るかも知れません。

では怪なコトバに存りましたら、こ  
の語も頼みにします。

## 国際児童画展について

由にエスベラント会では、11月23日勤労感謝の日に、由に小學校で町教育委員会  
主催の由に町内小中高校児童生徒及一般の書、画、写真、手工作品展示会に、国際児  
童画、絵葉書、観光案内書、書籍等の展示会を開催した。小宮エス協会の山賀、早川  
高橋名氏の御協力を頼りて、貴重で外国の児童画、絵葉書、書籍をお借りして、それに  
新田所有のものを加え出品数は児童画8ヶ国から56枚、絵葉書25ヶ国から150枚  
での地獄光案内書、書籍多数を教室一杯に展示した。

小學生の観覧者は割合に少なかったが、中學生高成生は特に絵葉書に興味を持ち、  
高校生や学友役員の中には、絵、批評書、アンテルセン童話のエス訳などを手にとつ  
てみる者も多数あり、又初編を受けただけでエスベラントから送ざかつていた人の中  
で改めて勉強しようという者も出来たり、効果的であつた。

(新田)

## 小中学校のエスペラント教材

ウッポロ 木内 一 夫

「教育出版」という教科書会社から発行されている小学校の国語教科書「小学国語」と、中学校の国語教科書「中学国語」には、いずれもエスペラントに關する教材がとり上げられている。すなわち、「小学国語」六年用の下巻に、説明する文の一例として、百科事典から引いた「エスペラント」と「ザメンホフ」の説明文があり、「中学国語」二年用の下巻には、学会会員である伊東三郎氏の「エスペラントの父ザメンホフ」と題する伝記が十数ページにわたつてのせられている。教科書のよみあひについてはよくわからぬけれども、このように系統的にエスペラントを取り上げていることだけから考へても、進歩的な良い教科書であるといつてよいであらう。

これらの教科書は北海道では採択が多く、ことに「小学国語」は全道の九割以上の小学校で使用されていることである。これは、北海道の教育にとつて喜ばしいことであるけれども、せつかくのこの教材が、どのように取扱われているかを考へると少し心配になる。小学校では単なる説明文の一例として、また中学校では伝記文の一例として、極めてあつさり觸み遣ふされているのではあるまいか。もしそうであるとするとまことに惜しいことである。教科書の文章は非常に簡潔に表現されているけれども、そのことばの奥にある深い意味を理解しなければほんとうにその文を読みとつたとはいえない。この深い奥みに弄くことこそが先生方の任務であらう。エスペラントの教材を教員の時、それを採擇される先生方のエスペラントに対する素養の程度が、子供たちの学習効果の上に明瞭に現れてくるに違いない。つぎに先生方が研究しておかなければならぬと思われる点を教科書の文章について考へてみよう。

「小学国語」の「ザメンホフ」の項に、「ことばの不通から生ずる諸民族間の誤解をなくし、人類全体の幸福を増進しようとして国際語エスペラントを創案して宣傳し、その普及に努めた」とあるが、これだけではザメンホフがあの類型的な人類愛と平和に対する企願を持つに至つた動機も、血のにじむような創案や普及への努力も理解できない。また、「ザメンホフ」の項には「国際語」とあり、「エスペラント」の項には「世界語」とあるが、このことばの滑りも軽く見過ごしてはならないものである。さらに、「エスペラント」の項にある「文法が簡単で、除外例がなく、学習が容易な点にある」に至つては、一通りエスペラント文法に通じていなくてはならないものでもない。

しかし幸いにも、「中学国語」のザメンホフの伝記はなかなかよく書かれていて、エスペラントとザメンホフについて相当に深い理解を与えてくれる。小学校の先生方にはぜひ一読していただきたいものである。それでも文法の詳細については、ザメンホフが中学五年（16才）の時に、英語の文法の闘争などからヒントを得て、ついに「二、三ページでじゅうぶんな最小の文法にたどりつきました」とあり、また、「単語というものはこの『

スカヤ<sup>1</sup>（ロシア）とに気がついては少しも離れたの先生も高く

王王と義と世に關する教材がストにほくく理の教育の精神にの海風に協力すて、小中学校のろうが、

昨日私展で所ども「運動につし世界の子ども

「世界の子どもおとながら書年の朝がおこるに

一編の仕事を目の前の大

スルヤ<sup>2</sup>（ロシア語の）のような語尾をうまく使えば一つから他の単語を作り出せる。」ことに気がついて、大入道のような単語群を征服したとあるだけで、その具体的な内容については少しも触れていない。従ってエスペラントそのものについては、小學校の先生も中學校の先生も全くABCから夢んでおかなければ、子どもたちの真向にも告げるべきがないわけである。

氏王<sup>3</sup>と世界平和を主張するにしている日本の教育にとつて、これらエスペラントに関する教材がどんなに大きな意味をもっているかということは、われわれエスペラントにはすぐ理解できることである。国際語エスペラントの精神は、そのまま新しい日本の教育の精神にも通じているのである。われわれエスペラントは、新しい日本の教育の進歩に協力すべき使命になつていくといつてよいのではあるまいか。その第一歩として、小中學校の先生方に大いにわれわれを利用していただくよう切きかけてはいかぬであらうか。

## 「世界の子ども」運動について

支 物 湖 星 田 淳

昨年札幌で開催した第18回北海道エスペラント大会の席上で私が提議した「世界の子ども」運動について次に紹介いたします。

「世界の子どもの会」は東京都千代田区4番町4 平凡社内にあります。

「世界の子ども」の仕事の進みとひろがる反きようへの態勢を次にのべてみます。

### 「世界の子ども」の仕事の進み

ひろがる反きようとそれへの態勢

「世界の子ども」の呼びかけは国の内外からも、少年少女からも、

おとなからも、教育や文化運動関係の人々からも、新聞雑誌図

書の執筆編集出版関係の人々からも、大きな共鳴や反きよう

がおこり、いろいろな形の協力や要望の申出がさつ到してします。

かわた視野に火がついたようなありさまです。みんなの一致

にもえあがる情熱や力に道をつけ有効な形を手之実を踏むよう

にいなければなりません。正直なところみんなのいろいろな意

見熱意にまごつく興がでした。前号でもちぢたように仕事の

分化と組織化を進めましょう。

— 編集の仕事は資料集めに努力を集中 —

目の前の大きな具体的仕事である「世界の子どもの経万風土記」の編集の仕事は編集部

をしつかり固めて専向にその仕事を鋭いで進めます。

各巻の協力者(国粋及び個人)には国語文通により各国の子どもの作文を薦めていた  
きます。

文通以外により資料を集めることのできる人びと、例えば各国を旅行するとが身近かに  
外国のともだちといふとがの人々の協助力も時にお願ひします。

有益な資料のある方、有力な通信あいて通信能力のある方は編集部へ時に直接郵便請  
ださい。このための国語文通の実費はお申下下さい。

(要 領)

一 つくる本の大きさ --- 日本の「風物土品」でいさいで約12へる冊(書店が図書  
部で売ってください)

ロ --- 内容 --- 各国の生活と地理 町村ちようを思した児童の生活 絵画、児童画、版画、年  
表を主とします。児童新聞、地理、歴史、教科書などを参考にして解説満足します。

ハ --- 巻別 --- (仮案) フランス・ベルグス編、イギリス北歐編、ドイツ中欧編、東欧  
編、地中海諸国編、ソ同諸編、東アジア編、南アジア大洋州編、西アジア・アフリ  
カ編、北アメリカ編、南アメリカ編、日本編、世界概観編。

ニ --- 刊行の順序は早くできるのから出しますが、大体フランス編、イギリス編、東アジ  
ア編、北アメリカ編、ソ同盟編などの順です。出しはじめて二ヶ月に一冊出しま  
す。第一冊の資料は今年八月ごろまで、第二冊は十月ごろまでに、第三冊は十二月  
ごろまでに大体そろえたいのです。

本になるにはそれからほんやく解説編纂に数ヶ月がかり、全巻完了にはあと二冊が  
かる大冒険ですが、みなさんの偉大な協力を頼みます。できた本各巻には  
その作文を書いた子どもや、協力してくださった方々の名前を掲載します。

文通により収集される資料は文通者の所有とし、編集部へ貸与を願ひ、使用後はお返し  
します。

「世界の子ども」の仕事は  
一つの川石を裏じられた水  
面に立つ波のように広がっ  
ていく。子どもたちや、子  
どもの仕事を大人たち  
の、つなかりを求める気持ち  
にしつくりと含ったからで  
あろう。つなかりを求める  
気持ち --- それは任まよく、  
争いのない社会を作るため  
に、みんなで力を合せたい

心からである。 子どもの時から国境を越  
えて文通し作文をとり交し  
てお互の理解を深めること  
は、その子どもたちの世代  
となつたとき、国際的な協  
力の上に何と大きな力を発  
揮することであろう。私は  
この運動のための小さな石  
が、あの大それた夢を起  
し、そして残照の遺徳を被

書でもある日本によつて  
裏じられたことに大きい恩  
恵を感じている。  
「世界の子ども」が真に世  
界の子どもたちの正しい成  
長に役立つよう、真摯な人  
たちによつて指導されるこ  
とが心から望まれる。  
(羽仁龍子)

—Malb

Jen sid  
kaj balbu  
"Oni di  
la pratem  
La kialo  
mando; N  
Jen tag  
alian pr  
Tiam la  
mpigu en  
kiel Ei-  
Aŝskul  
raste tie  
Pli k  
voston i  
igo de r  
om multe  
el malva  
'Kia g  
sian vos  
gaga. 7  
gusta be  
'Ho, m  
ploris.  
La ra  
de simio

# Kial Vosto de Simio estas Mallonga ?

— Malnova rakonto de Prefektejo Simane —

Noboru Hajakawa

Jen sidigis, iun nokton, mia kara maljunulo apud la forno kaj balbutante ekparolis al mi:

"Oni diras, ke vosto de simio estas 66 metrojn longa en la pratempo. Ja, tiel oni kredas. Ĉu vi pri tio dubas? La kialo ke la vosto poste mallongigis, estu do via demando, nobejo."

Unu tagon simio vizitis urson, kaj konsiligis unu la alian pri la timo por elkapti multe da riverfiŝoj. Tiam la urso diris al la vizitantaĉo, ke la voston trempigu en ian profundan abismon en nokto malvarmega kiel ĉi-nokte, por hokigi ĉiajn fiŝojn ĉe tiu pinto.

Aŭskultante la urson, la simio tre ĝojis, kaj senprokurate tiel faris, kiel montrita de urso.

Pli kaj pli profundigis la nokto. Tiam ĝi sentis sian voston iom post iom peza, kaŭze de la progreso de glacigo de riverakvo. La simio do pensis, ke ĝi ĵus havas timon multe da fiŝoj ĉe la pinto, kiom ĝin liberigas la sukceso el malvarmego.

'Kia ĝojo!' Ĝi ekkriis. Nu, ĝi komencis suprentiri sian voston tiel forte, ke ĝia vizaĝo fine fariĝis ruĝega. Tamen, kia efikiĝis? Ĝia vosto ja ekrompiĝis ĝuste ĉe la radiko.

'Ho, malĝojinde!' La simio rekrakis, kaj tuj poste ekploris.

La rakonto nun finiĝas. Tial oni ne dubas la voston de simio mallonga kaj plie ĝian ruĝan mienon.

— Fino —

# Revuo Orienta による北海道工界

坂 下 清 一

はし ば き

忘却とは忘れ去ることさうで、記憶とはうすれゆくものらしい。今の北海道工界では古い方だともう私も、初めた頃やその以前のことにはわからないし、その後のこともおぼろげなことが多い。何年か前の全道大会で郷土誌解題のことが可決した時私も相当溜つた R.O 誌の中から北海道のことを探して参考にしようと考え、同志にも話したことがあつたが、そのまゝになつてしまつた。今年の大会で HEL の委員長の大任を仰せつかつたのを機にこれをまとめる決心をしました。幸ひ HEL の読者の中に S<sup>ro</sup> Takase 貴殿の R.O に私の持っていない劇刊号から持つていたので尚元気づきました。古い人は古い頃の新しい人は新しい人でお互にもつている *fervora, sindonema, anta, entuziasma* で形容できるあの *esperanto* に対する熱意を要に運動に捧げられたいを以てす。

1920 Jaro 大正9年

- Marto** 33 報告 新入会高森正吾(北海道)高森三三(札幌区)  
★(註)旧 ESP 協会員外で新しく J.E.I. に入会した人の名は前号 No.2 から報告されている。
- Aprilo** 37 *Esp-Inter Fervolistoj----- Sapporo Superint. Depart. Fako por Mek. Ing. 9*  
「鉄道局員と工界」鉄道局員同志会中 栗田友十の尽力のお蔭にて日本鉄道 *Esp* 会は良好に発達しつつあり、既に三月末日迄に入会を申込みたる者四十一名あり、即ち-----「札幌管理局工作課」
- 43 報告 新入会中野寿(札幌区) 渋谷千代吉(道南) 田中久彦(全) 香山謙一(全) 千葉滋(札幌区)
- 43 消息 学会委員萩原謙雄氏は京華商業学校を卒業し小樽高等商業学校へ入学せられた。
- Majo** 57 報告 新入会 高瀬正味(札幌) 名沢一二(札幌)
- 60 接収 小坂委員は五月九日から約二十日間北海道旅行を了して去月二十九日帰京、別乗内函通信の如く札幌区及苗穂町で講演をなした。札幌では三田孝士指導の下に講演会が成られる。
- Junio** 67 小坂委員は約二十日間の北海道旅行を了して去月二十九日帰京、別乗内函通信の如く札幌区及苗穂町で講演をなした。札幌では三田孝士指導の下に講演会が成られる。

Julio 79



69 内報 © Sapporo Vespere la 25-an de majo, en la lekcisad-  
onego de Ferroja Klubdomego sub la aŭspicioj de  
Meĥanika Fakol, Sapporo Departement de Stat fer-  
rojoj oni aranĝis propagandan paroladon de  
S-ro K. Ossaka, inĝeniero, kiu alveturis en la  
urbon al Tokio.

Aŭskultis 150 p. Post la parolado, por bonveni-  
gi la parolinton, oni aranĝis vespermanĝon,  
kiun partoprenis S-ro Tamahaŝi, fakestr., S-roj  
Sakurai, Sigemi, Tokunaga, ŝeroroj inĝenieroj  
Sekigawa, Furukawa, help-ing., kaj s-roj Ŝiba,  
administ. de Elektra Kompanio, Macuo, inĝ. de  
la Kompanio, Mita, Takamacu, kuracisto, Taka-  
se, prezidanto de Knabina Liceo, lokaj memb-  
roj de J.E.I. Oni decidis fondi Esp. grupon kaj  
komenci kurson sub la gvido de S-ro Mita, ag-  
ronomia licenciato.

70 新入会 区川真田 (北海道)

Julio 79

MIRINDA KLOPODO. Vigla morado en Sapporo.  
En Sapporo, ĉefurbo de Hokkaido-Insulo, lasta  
tempe subite ekvigligis niamorado. Ni vidas  
senoj semitaj de niaj propagandistoj S-roj K.  
Takahashi kaj K. Ossaka, inĝenieroj, jam komen-  
cis doni radikojn kaj trunketojn: oni baldaŭ  
poros ĝui plenan esploradon kaj riĉan fruktadon.  
La lokaj samideanoj, unuigitaj okaze de la vizito  
de S-ro Ossaka, decidis komenci Esperantajn  
Kursojn, presigis kaj disdonis propagandajn folio-  
jn kaj anoncis pri la kurso tra la urboj, precipe  
de lernejoj, oficejoj, bankoj kaj aliaj institucioj.  
Tio, dank' al bona tedenco de l' tempo, kaŭzis  
intensan atenton de la urbanoj. Enskribigis  
al la kurso jam, 86 personoj. Ĉar oni ne povis  
travi klasĉambron, kin porux enteni tion multe

da lernantoj, oni komencis du klasojn samtempe, merkredan kaj vendredan vesperojn, sub la lerta gvido de s-ro Ĉidai Mita, licenciato agronomia. Oni devas danki tian sukceson al la sindonemaj, ardantaj klopodoj de S-roj I. Sekigawa kaj H. Furukawa, helpinĝenieroj de Ŝtatfervojoj, kaj aliaj fermezaj samideanoj.

Brilan prosperon al la novaj batalantoj!

80

察 興 審 議

北門文化の中心たる札幌に於けるエス運動は新舊老工學士兼任中の諸友に操を授けし五月二十六日鉄道俱樂部に於ける札幌鉄道局主務工作課長其他幹事並に同区會員の催したる小坂技師歓迎会の席上に具體案としてあらはれ、協力諸友の對として講習会開催と決し、先づ諸友ならを以てして各官庁会社學校其他全市に宣伝を行つた。鉄道局岡川、古川兩氏の來信に「当講習会は最初の予定は50名位なるべしとの計画にて進行致しており候迄詢問までには各方面を網羅して、100名の多数に達し準備と場所とに整備を極めしむ所兩の機会に廣く空しく謝絶するも遺憾に候其候改之を火曜日(中卒卒以上の経験力あるもの)と金曜日(それ以下の二組に分ち六月二十九日才一回火曜日の組を消去候處80名出席に及候其中10名の女子も有之可候當中に紅一点を望し候。会場は目下当区幼稚園を一更三月にて借用致候も燈台は札幌水力電氣会社の資器によるなど其他幹部の敵身的活動の有様美を期し居り候。暫て暮れし敬啓のエスマラントの種子は大正九年に再生の意に浴しやがて百倍の實を結ぶべく遂に新戸垂を踏み度車驟候」講習は三田留大氏で、諸友のチランは區の有志大門氏の資器による。同席の新部諸君の此の活動振りは今夏普及會の一派の清流刺ではあるまいか。遂に諸君の健斗を祈る。

81 報告 新入会 佐々木登太郎(函館) ★ 現学会の三史史呼氏もこの權に載つて居る。

Aug

88 ~  
 ◎ Sapporo. La kursoj tre bone progresas sub la lerta gvido de s-ro Ĉ. Mita, licenciato agronomia. Oni baldaŭ komencos novan kurson, kien gvidos s-ro Takase, direktoro de Virina Gimnazio.

◎ Otaru. En Aŭtuno oni komencos viglan movadon sub la pionirado de s-ro Hagihara, lerta esperantistknabo, kaj s-ro S. Takakura, fervora propagandisto, fus transloĝiginta tien el Rumoe.

Sept 108 報告 新入会 佐藤照羊(北海道) 滝田光治、山辺三也、五十嵐寿治、重田勇助、小山

平平、佐藤順一郎、藤原政三、長谷雄太郎、栗原健、岡川石太郎、古川元(札幌)  
Dec 141 報告 新入会 兴村清吉(札幌)

1921 (大正10)

Jan. 12 題黄録題发表、和文エス訳に札幌三田屋大氏の訳文掲載 ★尚五名の受賞者は藤原  
健三(小樽)蓮藤野太郎、村上知行、碓崎巖氏である。

12 報告 新入会 徳永晋作、渡辺信、三崎明雄(札幌)

Feb. 24 " " 堀美清彦(札幌)

Aprilo 42 小樽 萩原謙造氏「エスペラントの適用」……高橋先生の「エスペラントの應用」に  
就て公開状

44 報告 新入会 藤沢道雄(札幌)

Majo 55 " " 岸浩三(小樽)

Julio 79 " © Sapporo Ĉiunlande okazas studa kunveno sub  
la gvido S<sup>ro</sup> Takase; partoprenas 9-13 personoj.  
En Naebō Fabrikejo de Ŝtatefervojoj funkcias  
Ĉiu-lande Esp. kurso, en kiu la direktoro inĝ.  
Tŭamoto, inĝ. Tokunaga kaj aliaj dek kelke da  
anoj lernas Esp. sub S<sup>ro</sup> Takase.

80 " 新入会 山内海夫(札幌) 安藤勇兵(札幌)

81 研究 エス文和訳 (小樽 萩原謙造) 受賞 ★高橋、高橋も佳作。

Aug. ★この号は特別号で会員名録になっている。新入会で就つた人以外に古い人が加録  
直正(工学士)夕張、佐藤洋 根知英(小樽新南支局) 玄川真司 泰似、  
黒沢道雄、白石。

札幌 高橋正栄、小田切操子、藤原政三、長谷雄太郎、岡川石太郎、菊本新三郎、  
栗原健、尾田光治、安藤勇平、松尾聖治、中野壽、佐藤順一郎、山田海夫、千  
葉滋、塩井亮吉(工学士……建設会社) 岡崎健雄(牧州) 名沢一、兴村清吉  
(代)、目黒謙雄(北大)、湯沢道雄(北大)、三崎明雄(鉄道)、徳永晋作(工学士鉄道  
技師) 古川元(鉄道) 渡辺信(鉄道)

函館 虎渡乙松、三田屋大(龜田村函館師範学校)

小樽 萩原謙造(高橋 正良家)、平岡文三(全北斗家)、高橋正吾、岸浩三、  
笠岡 水料吉郎

会員増減表 1916 1919 1921

北海道 3 10 37

1221以外は日本エスペラント協会々員、1909は五月十五日現在、1919は

2月末 1921は8月10日

(参考)

東京	79	170	323
大阪	9	33	55
神奈川	14	88	49
京都	6	14	48
計	189	464	720

Nov. 138

販去 札幌より東京へ佐藤一節 小樽より浜館へ高永正吾  
有馬 豊 台北より十藤清水へ 町西藤原 東京より札幌へ(北大農学部)

Lokaj Grupoj

札幌 Esp 研究会 小樽 Esp 会 函館 Esp 会

Dec. 144

報告 新入会 坂柳辰次郎(函館) 額田友雄(札幌)  
販去 熊谷勇吉(福山)青森より、梅津祥一(小樽)新潟より。  
★この頃の会費は普通年々円 賛助5円 雜費会員10円以上です。

1922(大正11)

Jan. 10 報通 新入会 花田優郎(札幌北大)

南 藤三 町野外龜雄、平次 清、京田貞一、小野芳太郎、林野功江、松井  
敏郎、前田吉太郎、篠 新一、伊藤高敏、森 能一、鈴木和善郎(函館鉄道局)  
玉 友 梅津祥一(小樽)

Lokaj Grupoj

札幌 Esp 研究会。(札幌区 南大通西十五丁目角高永正策)

小樽 Esp 会 (小樽区 小樽高等商業学校校舎二階格合 萩原健造)

函館 Esp 会 (函館区 千代ヶ丘 高永正吾)

Apr. 61 報通 ◎Hakodate - La loka grupo anangis respere la  
25 an de marto en la domo de Sro O. Toruutari la  
adiciaŭn konsilion por prof. N. Mita, kiu iras  
al Tokaŭi Agromonia kaj Arbaroscienco Lernja

Junio 95 報通 ◎Oteru - Longa vintro nin esperantistojn de  
la mondo dormigis. Sed jam najo forrabis ne-  
ŝon por de tiupri (monto) kaj ĝin anstataŭis  
per floroj. En aprilo ni jam faris propagandan  
paroladon kaj de tiam funkcias unu teruso

en lernejo (Otaru Komerca Kolegio), kiun estas 23 studentoj kaj 1 profesoro. Ĝin gvidas mi. Oni ankau intencas ludi dramon Esperantan inter alilingvoj de la fremdlingva jun-  
kunveno de la kolegio; tio certe estos bonega propagando. (Raporto de Sro K. Hagihara)

★ 学会同本郵便が日本大会に未達した時、小穂の産校会で坂下が高商で外報  
劇でエス籍のもあつたと語つたのはこの頃の事だのである。

Julio 110

◎ Hakhodato. — La lokaj sanoj nun havas, cium  
London respere, je 19 h 30, kutiman kunsidon  
en la domo de Sro Teraŭatari (Laŭ raporto de  
Sro Takakūta)

姓 名 表

有馬 章 (十勝清水) 三田 田大 (柳本町十番農業学校)  
久川 眞円 (琴似) 藤沢 隆雄 (白石) 福田 義雄 (桑井江) 功力 六郎 (山崎  
北大深野村) ? 谷 友次郎 (岩内) 熊谷 勇吉 (稚山町御膳) 加藤 道正 (夕張) 増井 隆 (紋別)

留館区 高瀬 正吾 (新成院者) 滝波 乙松 (成科匠) 森 柳 友次郎 (小山之く、  
長谷川 武雄 (生桂) 沢出 賢雄 (会社員) 坂 込 俊雄 (店員) 森谷 正夫 (郵便局員)  
有瀬 与一郎 (教育会長) 小清水 正三 (柳野与太郎 (郵便局員) 加  
川 延廣 (会社員) 南 雄三 (前部外雇員) 小野 芳太郎、松井 敏吉 前田 太郎  
平沢 清 或野 助江 京田 貞一郎 (以上函館運輸事務所) 伊藤 高敏 (札幌録録工  
場)

小樽区 坂原 兼雄 (高商生) 平岡 文三 (高商生) 岸 浩三 (技师) 清水 百三  
(学生) 櫻井 甚吉 鎌田 一

室蘭区 阿崎 敏雄 水村 芳郎、福士 徳之進

札幌区 高瀬 正栄、小田 切鶴子、小环 鉄太郎、額田 史郎 (官吏) 菊本 新三郎、  
長 扶 俊太郎、藤原 政三、宮地 良治 (医師) 栗原 健 梶 田 光治 松尾 豊治、中村  
弘、遠美 輝雄 花田 登郎、山田 摩夫 (警吏) 温井 亮吉、千 葉 誠、名 天 一、島  
西 勝次、目黒 義雄 与村 彌吉、日高 不二雄、渡辺 徳 (鉄道) 徳永 晋作、三 崎 明  
雄、吉川 元、岡川 巨太郎 柴崎 英松

会 員 府 界 別

	(1909)	(1916)	(1919)	(1921)	(1922)
東 京	73	76	170	323	527
東 郡	10	6	14	48	98
大 阪	14	9	33	55	87
神 奈 川	16	14	88	49	78
愛 知	5	3	4	5	95
北 洋 道	5	3	10	35	68
福 岡	6	5	8	14	43
新 城	3	2	2	7	40
.....	.....	.....	.....	.....	.....
	251	189	464	720	1,473

- ★ 近藤要輔氏 横浜の小樽工学会長は秋田市(教師)  
 田上政敏氏 横浜札幌工大工学会長は仙台市(華大地理学教授)  
 堀 真直氏 東京(偉大生)  
 内田 孝氏 現北大(理)教授 東京帝大理学部動物学教授  
 小串孝治氏 現北大(工)教授 福岡市外(講師) 加賀之る

1923 大正12年

- Marzo 57 廣延昭君に「札幌工学会」より二、三項問が来ている  
 Junio 104 学会は委員豊川善輝、岡本好次氏、会員中村善久雄、佐々木孝丸、石黒修治氏よりなる星岡派を仙台、盛岡、青森、函館、川根、札幌、旭川、室蘭、秋田、米沢、山形の各地に巡回せしめて巡回講演を行った。到着は大成功との報告来る。来月号には詳細の報告をします。  
 Julio 138 小樽Espa (小樽青森商業学校内 岩重 祐)代表者変更している

(以下 次号)

## 編集引継がせのことば

山崎 山本昭二郎

レオントードはOノ号を以て、以後はH. E. L. がすべてをやってくれることになった。

従来はほとんど一人の編集であつたため、一人の視野は複数のそれより限られており、又、時局的、能率的に自信がもてなくなつて、かねてより適当な人に編集を依頼したいものと考えていた。

Oノ号以後はH. E. L. の破産編であり、H. E. L. の役員の方達が大変、S人編集をやり、今後は私は一切責任をたかされるわけであるが、何としていゝ反面、内心はなかなかさびしい。私はこれにいろいろの夢をえがいていた。エスペラントの雑誌を作ろうと決心した当時はヤスリや麻紙に頼れたことさうない私であつた。ガリ版屋に出かけて、ヤスリの複製を教へてもらい、いろいろな本も読み、とりわけ哲劇印刷に心をひかれ、紙しや紙にしたら、参加してくれる人は吾こんでくれさうと思つた。それから四年。ともかく書いて、私にはここまで来さずにはずいぶんつらくて、毎号々々出すごとに「通商位はばうせんとして何も出せないのだった。この番次第するまで私は何れ人受をやつており、取れて歸つて、暖氣を切つたり、刑つたり、製本したり、全く腹中でやつた。レオントード以前はエスペラントの講談などヤリ一人で合衆して面白がつていたが、レオントードをばじめてからエスペラントの勉強は次第におろそかなり、即劇美の向上にはかり集中してしまつた。これは本末転倒であるといつてもいい。同志にも指摘され、そのころから、せめて編集と合衆集めだけでも諦かにやつてもらいたいものと思う様になつた。審判とか、いや、といふの次第ではなくて、さきに書いた某一人の視野はせまい、といふこと、この拙い志実さるべき時代に深山越えておきたいため身軽になりたつたこと、などが私の編集辞退の理由である。

私はエスペラントをやつてゐる限りレオントードは鏡けるつもりだ、とはいふものの、これからはH. E. L. がやるので、H. E. L. 次第でレオントードも右れるかと知れない、もちろんそれは私の本意ではないので、万一その様なことになるものなら、私は又あつて編集を引き受け、鏡けるかと知れない。そしてへとへとなり、川邊とその郵務はたき、自分の時間を使はしたし、一体何を解ているのかさくはくとした気持ちになるかもしれない。たしかに私にはお人好しの反面があり、家族や友人達からしようがなげられることも多い。レオントードは獲得でやつてきたのではないけれど、これが滋味とみられたり、もうけ仕事でやつてゐると思われたりするのはいづれ私にはうれしくないことだ。だが今後はその様なことはあるまい。

H. E. L. の新しい機関誌の編集員、坂下、アリマ、相沢、早坂、児玉の諸氏の力量と熱意に私は信頼している。

(1954. 11. 25)

## 連盟の機関誌と入会

についてお願い

HEL書記長 相沢 治 謹

昨年(9)月23日札幌市で開催されたオーストラリア全道エス大会の供託会に於きまして、小樽エス協会発行のLEONTODOを北海道エスペラント連盟の正式な機関誌とする事を決定確約致しました。LEONTODOについては皆様既に御存知の通り、952年小樽エス協会の機関誌として発行され、その内容と印刷技術の優秀さによって全目的に知られ、又、昨年度の岡山に於けるオーストラリア全道日本エスペラント大会に於ける Gazeta-Konkursuro では最高の Premio を与えられました。現在の日本に於ける最高の Esperanto 地方誌であります。

現在の北海道で最も力強い基礎に立つて活動を展開している小樽エス協会なればこそこのLEONTODOの発行を無断することが出来たのでありまして、同協会の皆様方の御努力に最大の敬意を表します。又、昨年度大会に於きましてこの由縁あるLEONTODOを全道エスペランチストのために開放され、更に昨年度大会に於ては、HELの機関誌とする事につきまして、小樽エス協会の皆様方から提案され、満場一致で決定されました事は、全道のエスペランチストに於て大きな幸福であります。

従って今まで小樽エス協会にのみ負担を願つておりました機関誌発行に伴う事務的な用件は全として、連盟事務局で取扱う事となりました。ここに LEONTODO No. 11 をお送りするに当りまして、全道のエスペランチストの皆様方、今までにもまして LEONTODO を更に美しく力強くそだてて下さる様お願い致します。なおこの LEONTODO がお気に召したらぜひ連盟に入会下さつてご支援のほど心からお願いいたします。

### 1. LEONTODO の発行月と発行回数

1月、4月、7月、10月の年4回。

### 2. 会費 年200円(なるべく1年分納入下さい)

### 3. 1つのエス会に属している方々は10名以上まとめてフリエ工産川樽5040番北海道エス連盟へ。

また個人の方は現金を普通の手紙に同封して送金下さい。

### 4. 送金先 札幌市北1東9 坂下清一



# 北海道エスペラント連盟会員名簿

(1955. 1. 31 現在)

高橋 要一	札幌市大通東8-1
アリマヨシハル	“ 北24 西9
坂下 清一	“ 北1 東9
相沢 治雄	札幌市場水東町7丁目
新井 静太郎	札幌市苗穂町42 日下品金吉方
山路 彪峰	“ 北17 東4
橋内 和男	“ 北13 西3
仁保 武親	函館市高前町19 細田方
児玉 広夫	札幌郡豊平町字美園1区 道方才15案内
高木 敏子	札幌市南1 西14
竹吉 正広	旭川市9条9丁目右1号
岡本 義雄	空知郡三笠町美春别小学校
木村 喜王治	札幌市伏見町337
大木 克己	札幌市北1 西28 片岡春樹方

以上1955年1月末日現在の申込みを集めたものです。全道各地の Esperantisto の入会をお待ちします。

(入会希望者はまずハガキでお知らせ下さい)

## 地方会々員住所変更

(所属工委会) (氏名) (新住所)

小 橋 高 橋 達 治 小樽市榎町307

” 高 橋 やす子 全 上

” 山 本 昭 二 郎 小樽市清水町34

” 山 本 輝 子 全 上

(以上 LEONTODO N-no 9 発表の小樽工委会名簿参照)

札 幌 相 沢 治 雄 札幌市南水泉町7丁目

” 大 木 克 己 札幌市北1面28 片岡春福方

” 川 村 末 男 札幌市外コトニ町24軒 石川房雄方

” 瀬 住 有 保 札幌市北2面14

” 児 玉 広 夫 札幌市豊平町字美園/区 蓮舟才/5案内

(以上 LEONTODO N-no 10 発表の札幌工委会名簿参照)

由 仁 田 辺 至 深川町栗町 東高等学校寮内

” (田)平 坂 恭 子 札幌市南/築面2/丁目 野部美子

” 白 井 和 子 不 明 (結婚による転出)

” 田 中 祐 男 東京都 (勉学のため)

” 桑 島 正 男 札幌市 ( ” ” )

(以上 LEONTODO N-no 9 発表の由仁工委会名簿参照)

札幌工委会新会員紹介

柄 内 和 男 (40) 札幌市北13面3 苗穂小学校

Ni volas korespondi

S-ro William Philip Simpson (43 jara),  
3763 Brisban street, Harrisburg, Pa.

Usono

S-roj Gerard Mauw (13 jara).

Lang Marcel (13 jara).

Gilbert Becker (15 jara).

Aubertin Robert (12 jara).

Alfred Oger (12 jara)

24 avenue de plantier, Metz Francujo

F-ino Rhydderch.

6 Corporation Ave,

Fishpond, Bristol, Anglujo.

F-ino Elizabeth Anotelan,

NOVI SAD, Pionirska ul 4, Jugoslaviujo.

S-ro Vincente Gomez Lopez

Jose Cubas 4598 Buens Aires Argentina.

(volas interŝanĝi ilustritajn aŭ koloritajn  
P. K. ankaŭ P. M.)

S-ro Papelaria Nunes

Pua da Quitanda, 61 Rio de Janeiro,

Brazilo

(volas korespondi pri sportaj aferoj)

F-ino 神谷悦子

東京都文京区大塚辻町 大塚病院内 七舎

(Si kuŝas sur malsanlito en hospitalo kaj  
deziras korespondi kun samideanoj en  
Hokkaido)

### あ と が き

HELの機関紙としてのLEONTODOを一月中旬に発行の予定でした状やっとお手許にお届け出さる様になりました。HELの振替口座(小樽5240)を開くこと、原稿をお願いすること、集まった原稿を編集することなどで10月/4日から11月26日迄に5回坂下宅で会合をもちました。アリマ、相沢、早坂、児玉、松村、高橋の諸君が熱心に協力して下さいました。このLEONTODOの原動力である山本君の今迄の苦勞が本当に思ひやられました。御多忙をさいて印刷する山本君、根本に協力の早坂君に感謝致します。いろいろ御気付の点がありましたら何卒HELへお知らせ下さい。皆さんの機関紙として一層良いものに致します。尚会費は機関紙発行の重大推進力の一つですから未納の方はお早く御送金をお願いします。

2/18 坂下記

Vendas al vi

ESPERANTO  
POR  
INFANOJ

トーマス刷 ¥ 40  
円 8

初等講習のテキストに、譯  
習を終えた人々の読本に最  
適です。

原 稿 募 集

- ★ LEONTODO N-ro 12 の  
原稿を募集します。
- ★ 枚数、内容 随意 (日本文の時  
は原稿用紙を使用して下さい)
- ★ 原稿締切 3月31日
- ★ 原稿送付先 北海道ESP連盟  
若しくは, *al s-ro ARIMA,*  
*s-ro AIZAWA*

(おわび) この N-ro 11 の原稿は比較的早く入手したのですが、発行手  
定を / 月中旬としてあったのに突に / ヶ月以上も遅延してしまつた。  
(いかに本業が兩期的に多忙とはいえ、印刷者の怠慢により期日を厳守  
出来なかつたのは真に申訳なく思ひます。(ゞ)

LEONTODO N-ro 11

LA ORGANAGAZETODE H. E. L

発行日 1955年2月20日

編集行 北海道エスペラント連盟  
札幌市北 / 条東7丁目坂下方 (Tel )  
振 番 小樽 5240 番

印刷 山本昭二郎  
札幌市清水町34番地

会 費 年 額 200 円

# — おねがい —

- 昨年の第18回北海道 Esperanto 大会で、LEONTODO が北海道 Esperanto 連盟の機関誌と認められ、連盟が北海道の Esperanto 界の総元締として活動することになりました。
- この際、全道の Geesperantistoj は残らず連盟の会員になっていただきたいと思つてここに LEONTODO No. 11 をお届けします。
- 連盟の会費は / 年 200 円です。その内訳は  
 $Leontodo$  (1冊 35 円) + (送料 8 円) = 43 円  
年 4 回発行で  $43 円 \times 4 = 172 円$   
残金 28 円は / 年分の連絡通信費
- 会費は出まるだけ / 年分まとめて現金で普通便としてお送り下さる方が安くして便利です。特別に現金送金の扱いにする必要はありません。

札幌市北 / 条東 9 丁目 坂下清一方

北海道 Esperanto 連盟

振替 小樽 5240 番